

開会の辞

鶴見大学仏教文化研究所所長 伊藤 克子

ただいまご紹介頂きました鶴見大学学長、そして仏教文化研究所長の伊藤克子でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。今は六月ですから、まだ季節的には梅雨の半ばなのですが、今日は真夏のような暑い日になりました。また、さらに暑い昼下がりの時間帯にもかかわらず、鶴見大学仏教文化研究所主催の公開シンポジウムに、おいで下さいまして、誠にありがとうございます。

シンポジウムは、題しまして「曹洞宗の文化財」という大きなテーマを掲げましたけれども、これはわたくしどもの意気込みをそのまま示しております。と言いますのは、実は昨年は總持寺二祖峨山禪師の六五〇回大遠忌の年でございました。そしてまた、平成三十六年には總持寺開祖瑩山禪師の七〇〇回大遠忌が予定されております。この二つの遠忌をつなぎます十年間は、ご本山でも大学でも色々な記念の行事や企画を開催しまして、總持寺の、あるいは曹洞宗の文化を発信するいろいろな催しが続いて行きますが、その一環として本日のシンポジウムも企画しました。

今年三月から十一月にかけては、「禅の心とかたち―總持寺の至宝―」と銘打った展覧会が、總持寺の仏殿での旗挙げ展に始まりまして、四月、五月は鎌倉、十月、十一月は名古屋と巡回しております。本年度の仏教文化研究所のシンポジウムは、このことと連携して、「曹洞宗の文化財」と題しまして、大本山總持寺、特に宝蔵館「嫡々庵」と共催して行われるものでございます。大本山總持寺に収蔵されております、寺宝・文化財を始め、能登の總持寺祖院、そして永光寺、またご本山ゆかりの寺院に所蔵されております文化財は、国の重要文化財に指定されているものも多

く、県や市の文化財に登録されているものも、たくさんございます。それを一同に眺めてみますと、大変な宝の山を形成していることが分かります。

本日はこういった曹洞宗文化財、あるいは文化に関わると講演を中心に、これらの文化財を所蔵・管理しております総持寺宝蔵館に関するご講演などもございます。宝蔵館の中では、どのような仕事が行われているのか、そういったことについても興味深くお聞き頂けるのではないかと思います。

講師の先生方には、ご講演を頂きますことに、ありがたくお礼を申し上げます、ここにご参加頂きました皆様と共に、有意義な時間を過ごせることを楽しみに拝聴したいと思っております。

以上、簡単ではございますが、開会に当たってのご挨拶と致します。本日は皆様、どうもありがとうございました。